

## 第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 3 回定例会会議録

会 議 名	第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 3 回定例会
開 催 年 月 日	平成 2 7 年 5 月 8 日(金)
開 催 場 所	足立区役所本庁舎 南館 6 階 教育委員会室
開 催 時 間	1 4 時 0 0 分開会～1 5 時 2 1 分閉会
出 欠 状 況	委員現在数 3 名 出席委員数 3 名 欠席委員数 0 名
出 席 者	千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏 日本体育大学名誉教授 成田 國英 氏 東京学芸大学教授学長補佐 松田 恵示 氏
事 務 局	足立区教育委員会教育長 定野 司 足立区教育委員会子ども家庭部長 伊藤 良久 足立区教育委員会 子ども家庭部 青少年課 管理調整係 出席職員 青少年課長 寺島 光大 青少年課管理調整係長 広瀬 弘紀 青少年課青少年教育担当係長 村上 長彦 青少年課青少年教育担当主査 福井 京子 青少年課管理調整係主事 芝戸 拓矢 青少年課管理調整係主事 渡辺 菜摘
会 議 次 第	別紙のとおり
会議に付した議題	I 足立区社会教育関係団体補助金審議 II 第 1 4 期足立区社会教育委員会議での検討内容について

## **定刻午後 2 時・会議開会**

### **司会:事務局寺島課長**

足立区社会教育委員会第3回の定例会を始めます。司会を務めます当委員会事務局長の寺島でございます。よろしくお願いいたします。

開催に先立ちまして、4月1日付で教育委員会の人事異動がありましたのでご紹介します。教育長に就任いたしました定野司でございます。子ども家庭部長に就任いたしました伊藤良久でございます。

それでは、定野教育長より挨拶を申し上げます。

### **定野教育長**

定野でございます。足立区の非常に厳しい財政状況の中、教育委員会人事の刷新がありました。また、区長の強い思い入れのもと、27年度を子どもの貧困対策元年としました。本年4月23日、第1回「総合教育会議」が開催され、その時も区長から子どもの貧困対策について説明がありました。

人口構造が変化する中、急速な少子高齢化社会となり、特にその中でも生活保護の受給世帯が10年で5割増え、貧困問題は避けて通れません。区では、これに対し効果的な方策はないか総合的に検討していくこととしました。

今回の法改正は、教育委員会と区長部局がタイアップして、区長が教育委員会に対し意見をすることができます。これをきっかけに、両者協働、車の両輪でやっていこうと区長から話がありました。

私からは、平成23年、教育委員会の中に保育行政を取り入れたことを申し上げました。また、小学生に加えて0歳から5歳までが教育委員会のテリトリーになったこと、さらにもう一步進んでの問題として、特に高校の中退が深刻化しています。区内には、9の都立高校があり、合わせて約300人が中退している状況です。この問題に対しても区教育委員会としてフォローしていきたいと申し上げました。

その方策の一つに、高校と中学の連携会議を持ったらどうか、という提案です。ある都立高で既に実践していますが、例えば先生に相談できない、でも卒業した中学の先生であれば相談に乗ってくれる、あるいは中学での生活や子どもの頃の情報が高校にあれば、中途退学という状況を防ぐことができるのではないか。

教育委員会では、これを「高1クライシス」と名づけました。小1プロブレム、中1ギャップ、そして高1クライシス、これを教育委員会3つのボトルネックの課題とし、U(アンダー)16を一貫して、0歳から16歳までの教育を目指していきたいと考えています。

その中で、私が最近申し上げていることは、子どもたち自身が成長を実感できる、意欲が持てる、それを見て教師自身も成長を実感できる。さらに、保護者や地域の方々もそれを見守る、生きがいになる。このような教育を実践していきたい、と考えて1カ月が経ちました。

どこまで実践できているか未知数ですが、これを区教育委員会として大綱の柱にしたいと考えています。

最後に、当委員会議につきましても、大綱の中に何を盛り込んだら良いか、学校教育あるいは幼児教育、そして高校中退問題をどうするか、また、その先の青少年問題や生涯学習など、あらゆる視点で捉えていく必要があります。

そして親になって、その親が子どもに対するしつけ問題も、今後の教育という大きな枠の中で捉えて行く必要があります。これらの課題に対して、教育委員会、区長部局の連携を基本に、是非とも、色々な視点でご示唆をいただきたく存じます。

6月、7月には、大綱に向けた総合会議を開催します。その後も、先生方のご意見もいただきながら会議を進めていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

長くなりましたが、私自身、今考えていること、そしてこの会議に非常に期待していることを申し上げました。よろしくお願いいたします。

### 寺島青少年課長

ありがとうございました。では改めて各委員の先生方をご紹介します。

明石議長でございます。

成田副議長でございます。

松田委員でございます。

それでは、開催に当たりまして、明石議長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

### 明石議長

今の教育長の話をついて元気が出ました。通り一遍の施策では駄目です。例えば、小中学校の先生に足立東高校、エンカレッジ高校を知っているかお聞きしたい。高校の教科書は使用しますが、それに基づく授業はできていないので、独自の数学と英語の問題をつくっていくとできる。そのような成長を実感できる仕組みづくりをしていかなければいけません。

現在の中教審は、高校、大学の接続を入試から取り入れています。もう1つは、中・高の連携が大事。中学までは区教委、高校は都教委が責任を持つ関係、これでは『仲良し』と云えず連携につながっていない。中学と高校の接続をどうしていくか、高1クライシスを、ぜひ足立区教育委員会で考えていただきたい。

日本の義務教育はしっかりしている。一方、高校では中退が出てしまう。小・中・高の12年間をどうするかが課題です。今、ビッグデータといいます。足立区の小学1年生のデータを押さえて、12年間、区が追って成長記録をとる。これを荒川区が10年前、ベネッセと組み、いついじめに遭って、授業でつまづいたのか、不登校になったのか、また、学校はいつハッピーで、いつ駄目だったのか、など、中3の教員がそれを見て、次どうするか考えることができる。

貧困対策の場合も、個人情報を守り、個人ヒストリーを確認できる仕組みを構築すべきです。今、教育長の話をついて、課題に向けて足が遠ざかっていましたが、これぞやる価値があると思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 寺島青少年課長

ありがとうございました。それでは、この後の議事進行は明石議長にお願いいたします。

## 明石議長

では、お手元の議事に沿って、1番目は足立区社会教育関係団体補助金についてです。説明は、寺島課長からお願いします。

## 寺島青少年課長

では、お手元の補助金審議用の資料をご覧ください進めていきます。

資料前段は、各種要綱等です。また、1月7日、第1回の定例会におきまして補助金の内容について簡単にご説明いたしましたが、おさらいをしながら進めたいと思います。

まず資料30ページです。ここから、各団体への補助金、活動内容と、これまで3年間の補助金額、また予算額について提示しています。

1番の青少年対策地区委員会（以下、地区対）に対する活動補助金です。活動内容は、区内25の地区対がございまして、そこで様々な活動を行っていただき、それに対する補助金です。今年度計上する補助金額は、予算額、交付予定額で2,105万7,000円でございます。

次に資料4ページ。こちらが算定根拠で1地区当たり19万円、これにその地域に住む世帯加算として世帯数に30円を乗じ、これに各地区対で事業を行うに当たり、事業加算として金額を積み上げ交付する仕組みです。

地区対ごとで補助金額は異なります。概ね数十万円から100万円を超える金額を合計25地区対への交付額、2,100万円余でございます。

続きまして、30ページに戻り、子どもの広場、民間遊び場設置の補助金です。こちらは、地域の地主さんの土地を無償提供いただき、子どもたちの遊び場として活用していく事業です。こちらに係る管理費用などを計上しております。

27年度は、全部で6カ所の子どもの広場に対し、合計112万1,000円の補助金を交付する予定です。資料16ページに内訳を記載いたしました。設備費と管理運営費を分けて、設備費は、広場設置の初年度1回限りです。毎年度、継続しての補助金は、管理運営費です。遊び場の面積に応じて補助金額を算出し、6カ所で110万円余の予定でございます。

次に、31ページ3番目、少年団体連合協議会に対する補助金です。区内の子ども会、地区少年団体、それを取りまとめる少年団体連合協議会、これらに対する補助金です。交付方法は、連合会に交付し、各地域の地区少年団体に振り分けるシステムです。

区内31団体に対し、地区対のように1団体当たり9万5,000円に、子どもの数掛ける114円を加算して金額を決めています。交付予定額は873万6000円です。

続いて、4番目の計算フェスティバルに対する補助金でございます。そろばんなどの計算を通じて、子どもたちの計算力の向上、親子のふれあいなどを目的とした事業です。

資料20ページに要綱を掲載しております。3条に、交付額は区長が必要と認める額とする、ただし75万円を限度、としています。例年75万円の補助金を計上しています。

次に、32ページ5番目の母の会の事業です。区内4つの警察署が事務局になり、母の会が組織されています。地域の青少年健全育成の美化活動やパトロールなどに取り組んでいただき、

各団体6万円、合計24万円を交付する予定です。

続いて、6番目、足立区の小中学校のPTA連合会に対する補助金です。資料26ページ3条に交付額の記載がございます。連合会として活動する予算であり、運営費予算の2分の1の範囲内で交付します。加えて、各PTAの研修に係る費用で、1ブロック当たり5万円を積み上げ、32ページに交付額、小中学校合わせた金額となっております。

内訳はありませんが、小学校は134万円余、中学校は74万円余、加えて、小・中学校のPTA連合会では、事務局職員を連合会で雇用しています。こちらの人件費分として81万5千円を補助しています。

最後になりますが、7番目33ページ、小中学校PTAの連携事業に対する補助金です。

こちらも、要綱28ページ、中学校区ごとのブロックで様々な講習会等を行っています。これに係る費用を積算し、1中学校区当たり6万円を上限に計上しています。実際活動しているのが25ブロックです。6万円掛ける25ブロックで150万円となっております。

今年度支出する補助金についての説明は、以上でございます。

### 明石議長

ありがとうございました。今の説明についてご質問がありましたらお願いします。

では、私から質問です。計算フェスティバル（そろばん）は、足立ならではの事業と伺っていますが、いつ頃から実施していますか。

### 寺島青少年課長

古くは昭和二十年代、珠算塾による珠算大会への補助金が始まりのようです。

### 明石議長

現在、足立区では、放課後子ども教室を行っています。基本的に遊び中心ですが、教科ではなく学習的なことも取り入れていく流れがあります。76校の小学校の放課後子ども教室の活動とそろばん活動がうまくドッキングできればいいと、今お聞きして思いました。足立のそろばん事業を目標に、頑張る意欲につながっていくと思います。

ここで申し上げたいのは、別々ではなく、これこそ総合行政を絡めていくべきで、放課後教室の公社と教育委員会が連携、ディスカッションしていただきたい。

2点目は子ども広場の名称についてです。通常、プレーパークと言っていますが、足立では子ども広場です。それについて説明ください。

### 村上青少年担当係長

今は区画整理をして、児童公園が多く設置されていますが、以前は公園が少なく、安心して遊べる場が少ないので、民間の土地を提供していただき、運営経費は区で負担、地域で管理する方式で進めている事業です。地主さんは、固定資産税の減免などがあります。

一方、地主さんの代替わりの事情などで、徐々に広場の数、利用者も減少しています。また、区立公園が増えてきているなかでの事業であり、積極的な展開はしていません。

## 明石議長

千葉市や国分寺市も同様の事業があり、NPOに依頼してプレーパークをやっています。足立区では、子ども広場で何か事業を行っていますか。

## 村上青少年担当係長

各広場には、管理運営委員会を設置していますが、特に事業は実施していません。広場の対象は子どもですが、平日は、子どもが学校に行っている間、高齢者のゲートボール場にもなっています。

## 明石議長

単に開放だけでは、もったいない。その点は見直すべき。利用者も減っていく。

遊び場対策は、地主さんの税金対策でもあり行政の貧困対策にもつながっていく。子どもたちが積極的に利用すれば、体力や意欲、関心も高まると思います。

また、事業名ですが、子ども広場でいいのか。名前も変えていくのか、さらにNPOを活用するのか、などぜひ検討いただきたい。

次に母の会について。母の会は平成18年にできたのですか。また、足立区の取り組みの一つですか。

## 寺島青少年課長

開設は古く、要綱を変えたのが平成18年です。

## 村上青少年担当係長

母の会は、警察署の取り組みによる組織です。足立区管内に母の会を設置し、非行防止や青少年の健全育成に努める区民組織です。

## 明石議長

警視庁、警察庁のどちらか。母の会の活動は、自慢できる取り組みと思う。

## 寺島青少年課長

警察署です。補助金については、都レベルではあるものの、区が交付しているケースはあまりないと思います。

## 定野教育長

母の会の取り組みは、足立特有と思います。私は、総務部長を5年勤め、職務は治安対策でした。例えば、防犯などのPRで、警察がまちの人を集める際、母の会は強力な助っ人となります。母の会は、青少年の健全育成、非行防止に非常に熱心です。PTAを卒業した方などが、参加されているので、つながりもできて非常にありがたい組織です。

### 村上青少年担当係長

母の会は、年齢的にご高齢の方が多くようです。

### 明石議長

全国には、非行少年の更生婦人会がありますが、教育長おっしゃるように、足立の良さをさらに広めていくべきです。

次に、青少年相談員や補導員について、足立の場合はどうですか。

### 村上青少年担当係長

東京都が所管です。

### 定野教育長

警察の取り組みですが、社会復帰を目指す青年を対象に、地元の農地をお借りして、芋煮会などの事業を実施しています。母の会もお手伝いを積極的に行っています。

警察では、農地の活用やソフトボール大会が多く、参加者も多いようです。北千住駅でフラワーポットづくりも行われましたが、これも盛況でした。

### 明石議長

行政の事業評価はどこを見れば分かりますか。例えば、事業ごとの成果、それに対する補助金の増減、見直しやA・B・Cランクなどは。次回以降、資料を見せていただきたい。

### 寺島青少年課長

本日の資料にはございません。それぞれの事業評価は、毎年行っています。なお、A、B、Cの評価は実施していませんが、改善すべき点、課題や次年度以降の方針、方向性などを示しています。次回、行政評価の資料をご用意いたします。

### 村上青少年担当係長

本日の資料34ページ以降は、各団体の補助金や流れ、各事業の割合などの資料です。

### 成田副議長

膨大な資料を拝見し、勉強させていただきました。

一つ伺います。例えば家庭、またお年寄りなど、それぞれ社会教育は必要ですが、中高生の居場所づくりは色々な場面に出てきます。教育長のお話で、高校生の退学について伺いましたが、今後、中高生の居場所づくりは、大きな地域課題になっていくと思います。本日の資料のなかに、居場所づくりにかかわるものは提示されていますか。

### 村上青少年担当係長

補助金事業としてはございません。

## 寺島青少年課長

居場所づくりは、福祉部でも取り組んでいるところでございます。

## 定野教育長

議長からお話がありましたが、放課後子ども教室は、正に居場所づくりです。教育委員会として、今後もしっかり取り組んで参ります。但し、小学校内で取り組めるシステムですが、中学校ではありません。中学生の居場所をどうしていくかが課題です。

中学校では、補習授業を行っていますが、終われば家に帰ります。一方、たむろとか、ゲームばかりしているなど、そういう子どもをどれだけ減らすことができるか。中学校の居場所も絶対に必要です。

## 成田副議長

日体大運動部の学生を見て感じたことです。中高校生の居場所は地域で対応していく、これについて、今後の足立区を支えていくうえでも大きな課題の一つと思います。何も所属していない子どもたちが問題です。

## 定野教育長

運動部に所属する子どもは、居場所があります。私も中学でバスケットをやっており、部活で居場所がありました。所属しない子をどうするか。小学校は、放課後子ども教室、学童保育室などがありますが、特に中、高校生の場合が大きな課題です。

## 成田副議長

同感です。

## 伊藤子ども家庭部長

私、数年前まで地域の野球チームを見ていた経験があります。その子たちは、学校のクラブに馴染めない子もいます。担当したチームは、大きい中学校だったので、レギュラーに入れないと、地域のクラブチームに入ってきます。それも一つの居場所です。

そこでの経験ですが、ある学年は9人3年生がいました。全員高校に進学しましたが、全員退学。このようなケースもあり、退学が多いのは実感として持っていました。

その次どうするかが重要です。中卒の子たちが一番頼りになるのは友達や先輩です。決して行政に頼ってこない。友達のついでで就職をしていく。就職も長続きせず、いい話があると次の職に変える、という子も何人かおりました。また、プロのパチンカーになった子もいました。これらの子を行政でどう受けとめていくかも大きな課題になると思います。

特に就労問題。中学を中退した子がそのまま高校に入り直すケースは少ないと考えられますので、どうやって就労に結びつけていくか。就労した後に学校へ行きながら夜間や通信もありますので、そういう流れが必要です。



## 成田副議長

大阪市では各区に鼓笛隊があり、その活動はすばらしい。4月もフェスティバルがありました。本日の資料に吹奏楽があります。足立区の小中学校で、鼓笛隊はありますか。

## 村上青少年担当係長

現在、学校単位であります。以前は、社会教育課で鼓笛隊を3つ持っていました。土曜日に授業があったころです。しかし、かなり前に解散してしまいました。

## 成田副議長

解散の理由は。

## 村上青少年担当係長

一つには指導者の問題です。学校の先生が指導していましたが、様々な理由でやり切れない、また、保護者組織の運営の課題などもあります。

子ども会でも、地域や中学校単位で鼓笛隊を持っていたところもありましたが、やはり子どもが集まらない、指導者がいないなどの理由で、廃止したケースもあります。

## 成田副議長

4月末、大阪市で毎年フェスティバルをやっています。大阪市の鼓笛隊は、各区で活動しており、大変充実しています。

## 明石議長

成田先生のご意見から補助金を確認すると、重点目標がわかります。青少年の居場所について、また、補助金の有無、評価などが挙げられます。例えば長野県茅野市の青少年センターは、茅野駅の隣です。地方ですから、駅に近いほど事業に参加できる。また、中高校生のたまり場として、駅が使用できるなど、市長さんが率先して働きかけています。

次に、中央区晴海の児童館についてです。夕方は、児童館でも民間のNPOが中高校生に開放しています。今後、中高校生以上のたまり場については、青少年の貧困対策と絡めて検討していくべきと、成田先生の話をお聞きしながら思いました。

## 村上青少年担当係長

補足です。放課後子ども教室は、区のモデル事業から生涯学習振興公社へ移管しましたが、その時、小学校に加えて中高生の居場所も必要ということで5カ所程度、参加者は少ないのですがやっています。これについては、発想を変えて取り組むべきと考えています。また、住区推進課の児童館とどのように連携できるか動き出しています。

## 松田委員

2つ質問します。地区ごとに補助金を交付する事業があります。隣の地区の事業は分からないこともあると思いますが、情報交換の仕組みはありますか。

もう一つ、家庭教育の問題で、とりわけ高校中退や不登校が出たとき、家庭教育問題として負担が増えている実情があると思いますが、その取り組みがあれば伺います。

### 寺島青少年課長

地区ごとの補助金交付は、例えば各地対では年に2回、地区対の各会長が集まり情報共有を図る連絡会を実施しています。少年団体も、定期的に会合を含めて横のつながり、連携をとるようにしています。小中学校、PTAもブロックごと活動しています。ブロックごとに定例的に情報共有を図っています。また、全体の連絡会も実施しています。

### 明石議長

先ほど松田先生が言われた家庭教育は、非常に悩ましい問題です。ある区では、いじめ問題で子どもを亡くし、これをきっかけに小・中連携とともに、家庭も一緒にいじめ問題に取り組むべきと、1年をかけて応援団、家庭教育のすすめなどメッセージを発信しました。

足立区では、家庭教育の手引きのような冊子を作成していますか。

### 村上青少年担当係長

残念ながらございません。明石議長がおっしゃたことは、当会議における重要なポイントです。

### 伊藤子ども家庭部長

一言申し上げます。家庭教育の取り組みですが、今年からスクールソーシャルワーカー、略してSSWという制度を立ち上げ、3地域でモデルとして実施する予定です。これは、従来のスクールカウンセラーからもう一歩家庭の中に踏み込んで指導、助言をしていくという立場の方です。3年程度かけて全区展開をしていきたいと考えています。課題のある方に対してはより深い指導ができるのではないかと期待しています。

SSWは、心理士や福祉士など、専門分野の方です。今回は、他の市町村から優秀な方を引き抜いてきたということで、実績が上がると楽しみにしています。

また、数年来取り組んでいますが、CSPという家庭教育のしつけ方教室を開催しています。従来、6日間、8人で年数回実施し、今回はその簡易版をつくり、2時間程度で子どものしかり方、しつけ方を学ぶ教室です。従来は、家庭教育は自分の親のやり方を見て育ってきましたが、それを行政が用意していく時代と感じています。今回はそれを数百人程度の規模に、徐々に広げていきたいと考えております。

### 定野教育長

先ほどの高校中退約300人と申し上げましたが、小中学校の不登校児は約700人です。これも重要なポイントであり、まさに家庭でどう過ごしているのか、あるいは学校のどこが面白くないのか、どうすれば面白くなるか、それは授業だけでなく部活や先生、あるいは放課後であったりと重要な視点であると思います。

## 明石議長

ありがとうございました。それでは、他にご意見、ご質問など無ければ、お手元の予算案どおりでよろしいでしょうか。

【はい、と複数の返事】

## 明石議長

では、決定させていただきます。

次に、第2回の検討課題を受け、当委員会の方針、基本的な考え方、テーマ設定をしていきます。まず村上係長から説明をいただき、ディスカッションいたします。

## 村上青少年担当係長

今年度の検討課題や項目、スケジュールなど、資料を用意させていただきました。

始めに、スケジュールについて、裏側の5番、教育長から説明させていただいた教育大綱に関してヒアリングを予定しています。駆け足ですが、9月ぐらいまでに大きな課題を整理し、共通認識を持ちたいとイメージしています。教育大綱のヒアリングの際、特に青少年に関しては、教育委員会、そして先生方とともに共通認識を持って取組んでいきたいと考えております。

今回、まずお願いしたいことは、本日の討議にも出てきていますが、地域の教育力をどのように高め青少年を育み、特に足立では体験活動を重視していますので、今後、体験活動を通して青少年を育むことを目指していきたい。この中には家庭教育、学校との連携をテーマ設定としていきたいと考えております。

次に、検討項目についてご意見をいただければと思います。

大きく6つ想定をしています。1つが地域の教育力の核となる組織団体制の再構築、それぞれ昭和30年、40年代からスタートした組織が、ほぼそのままの形で続いています。その中で、時代とともにあり方の変化、変わらない部分など、既存の取り組みを今の視点で見直しをして再構築をすすめていきたいと考えております。

もう1つ、地域が中高生を育む仕組みづくり、高校生の中退問題、そして小中学生の不登校問題、放課後の過ごし方の問題も、学校が頑張れば済む問題ではありません。やはり学校と地域、家庭の3者がともに取り組む課題です。

そして、家庭教育や青少年にかかわる指導者の育成の問題です。指導者をどのように育てていくべきか。今までも取り組んできましたが、活性化したとき、波が引くように低調なときなど、波があります。そういう波ではなく、きっちり継続できる仕組みづくりが必要と考えています。

そして、指導者に関係しますが、足立には大学も増え、多世代の力を子どもたち、青少年のためにどう生かしていくことができるか考えていきたい。

次に家庭教育支援です。現在も区の組織の中では青少年課の役割として、所管事務概要に家庭教育に関することがあります。しかし、青少年課には家庭教育に関する予算はつけられていません。一方では、学校ごとの開かれた学校づくり協議会で、講演会などの事業を開催していますが、地域によってばらつきが出てきています。ここはもう一度、家庭教育に関す

る取り組みについて整理をしていきたいと考えております。

しかし、従来の家庭教育学級をやっても、来る人、来ない人、要は来ない人にどう届けていくのか考えていくこと、例えば地域の人たちがどのように家庭とかかわっていくか、など考えていくべきと思っています。

それに青年期の問題です。中退問題もそうですが、進学あるいは就職というところで行き詰まり、家庭に引きこもり、特に当てもなく親のもとで暮らしている青年が増えています。

その青年期に対する支援です。それには、より若い時代からの支援、取り組みが必要です。まずは、テーマである地域の教育力を高め、体験活動を通して青少年を育むというところで見つけていきたいと思っています。

## 明石議長

ありがとうございました。

## 成田副議長

村上さんに伺います。4番の検討項目ですが、子ども会等の地域団体、あるいは、既存の団体組織とのマッチングですが、例えば社会教育団体、ガールスカウトであれば全国で約4万人。ボーイスカウトは約13万人位だと思います。また、スポーツ少年団が約85万人、子ども会が390万人位。足立区の場合、地域団体はそういう団体を指しているのか、あるいはどの位の子どもがボーイスカウトやガールスカウト、あるいはスポーツ少年団に入っているか、そのデータはありますか。

## 村上青少年担当係長

足立区の場合、子ども会が約260団体あって、先ほどの補助金の説明にありました足立区少年団体連合協議会に加盟をしていますのでデータはあります。スポーツ少年団も加盟していますので分かります。ボーイスカウト、ガールスカウト協議会は、何年か前に脱退しましたので、現在は把握していません。但し、調査すれば分かります。

一方では、今、地域で子どもたちのことを考え、任意で活動する団体が増えています。その団体と既存の子ども会は、あまりつながりが無い状態です。新しい団体は、どちらかという既存の団体とのかかわりを敬遠しがちです。でも、同じ足立の子どもたちのために動こうという人たちです。そこをつなげていくことも、行政では働き掛けていかなければならないと思います。

## 明石議長

6つの項目の検討に入る前にお願いしたいのは、足立の基礎データが欲しいです。エビデンスを押さえて、結局は1から6まで、現状分析をしておかないと、靴の上からかくような感じがします。

来年、国勢調査が始まりますが、足立の転入、転出などの人口動態として、例えば30代が増加しつつあると思いますが、どこから来ているかなどの把握が必要です。例えば、千葉市の場合、65歳以上が東京に行く傾向、入ってくるのは埼玉と神奈川が多いなどです。足立区

民67万人の動態も変動していると思います。

特に知りたいのは、35歳から45歳の層がどうなっているか。幼児から児童を抱えた層が転入したときの動きが知りたい。一般論ではなく、ある層に限定して施策を打っていくことが必要です。

次に、足立の15歳は中学を卒業して、足立の9高校に行っているのか、外からか。また、足立に愛着心を持っているのか、ないのかなどを考察するうえで、データが欲しい。

これは、難しいでしょうが、おじいちゃん、お父さん、小学校5年生など3世代で足立に住んでいる層、何%位か。あるいは、お父さんの代で足立に来ている層はどうか。また、転勤族などと呼ばれる層がありますが、ある層は何年足立で暮らして転勤する傾向にあるのか、細かいデータは要りませんが、地区に分けて、サンプリングでもいいです。要するに学校の場合、3世代が7割を占めれば経営は楽と言われている。例えば、50、60周年記念で寄与してくれるが、漂泊層が多いとクレームは多い、愛着がない、などの考察もできる。

また、外国人登録者、国の数のデータです。基本的にアジア系が多いと思いますが、貧困対策の課題にも活かせます。外国の方たちの問題もあると思います。

## 定野教育長

貧困問題も、人口動態や居留意識などに絡めた対策がいいということですね。

## 明石議長

データは是非ご用意いただきたい。

次に学校の準要保護率が知りたい。ある市では全体の25%以上を占めています。

## 寺島青少年課長

足立区はもっと上にシフトする必要があります。10%台はまず無いと思います。

## 定野教育長

平均で36%です。7割位もあると思います。

## 明石議長

%が高いほど家庭崩壊も多くなる傾向です。家庭に押しつける問題ではなく、貧困対策は、青少年教育、社会教育でやらないといけない。学校と地域が連携して、例えば、集中的に5年間優秀な校長を抜てきして人事権を持たせるなど、そこまでする必要があると思います。

次に、一番学校でわかりやすいのは虫歯のチェック。治癒率が何%か。千葉大の附属小学校は100%です。言いたいのは、足立の家庭教育推進策は、一般論ではなく、例えば虫歯の治癒率はどうなのか、そこを重点的にどういう施策を打ち出していけばいいのか、ということの方策が見えてきやすい。

次に欲しいのは、文科省の体力テストと学力テスト。その中の理科、算数、国語。体力テストは、23区の比較が欲しい。8年間でフラットなのか、伸びているのか。

### 定野教育長

小学校は上がってきており中学校は平らです。全体的には体力も上がっている傾向です。

### 明石議長

そこがポイントです。体験の問題も含めて、例えば体力をつけるには体験活動を増やしていく、などの見方です。

### 定野教育長

歯についても同じことです。所得のある層は治癒できる。治癒していないのは圧倒的に低所得層に多く、はっきりしています。

### 明石議長

その辺から家庭教育と学校が連携して、虫歯や早寝早起き、朝ご飯でも足立は取り組んでいますから、そういう運動を起こしていきたい。

### 伊藤子ども家庭部長

虫歯の問題は、ネグレクト、虐待問題や生命にも結びついていく可能性があります。

### 明石議長

最後は、成田先生おっしゃったように、青少年団体と家庭教育団体などの団体加入率。減っている傾向を押さえて、この6項目を検討していくとわかりやすい。各データの調査をお願いしたい。

### 定野教育長

足立区の今の人口は、約67万ですが、大体3万人の動態があると考えています。3万人の出入りがありますが、全体では、ほぼ動きがないと捉えています。先ほどの35歳から45歳は出ていく層に多い。要するに、子どもの成長に伴って家を買って出ていく層、最近変わってきているのは、マンションが増え、流入層も増加してきているのは間違いないです。以前とは大きく変わってきています。

### 明石議長

足立の新しい動きですか。

### 定野教育長

そうです。であるので保育園が足りない、学校がある地域については足りない、などここ5年で変わってきています。特に、つくばエクスプレス、日舎ライナーができてから、新田の開発や千住大橋、西新井の開発もあり、大きく変わってきました。以前は、足立から出て行く方が多く、人口減少の時期がありましたが、今は盛り返しています。

## 明石議長

犯罪について伺います。全国のデータと同じように、足立の少年の犯罪率はどうか。また、例えば、不登校、中退率が上がったけれども、万引き窃盗も増えているなど、そうした関連性もあるのか、などです。

## 定野教育長

犯罪件数は、足立は非常に多かった時期があります。平成19年頃から足立区は都内でナンバーワンを4年続けました。現在は6位ぐらいになっています。対策として、ビューティフル・ウインドウズ運動を5年やってきました。その成果として、犯罪件数は、昭和44、45年前のレベルまで下がりました。

足立で特に多いのは自転車窃盗です。区民性なのか鍵をかけてない自転車が6割もあったことがあります。また、万引きや少年の補導率、逮捕に至る件数は、全体として減少傾向ですが、率として多いことが言えます。

先ほどの、農業体験やソフトボール大会で再犯を防止する、こうした活動をとおして、自分は一人じゃない、仲間がいることの体感によって、犯罪防止につながっていると思います。

## 村上青少年担当係長

少年犯罪は、警視庁の台東少年センターが足立の管轄です。その中での集計では、やはり足立はどうしても多い傾向になります。児童相談所も、足立と葛飾が一緒ですが、課題は圧倒的に足立が多い。

## 定野教育長

最初に取り組んだのは、自転車泥棒は犯罪です、から始めました。他人の自転車でいったら犯罪です、と。「鍵をかけて」、と7万個のティッシュを配り呼びかけました。

## 明石議長

視点は違いますが、ある市は人口96万で、小、中の先生は4,500人います。70万の足立区で、小、中の先生の数は。

## 定野教育長

2,700人です。

## 明石議長

2,700人のうち、足立の勤務年数はいかがでしょうか。腰を据えてくれない先生をどうやって引きとめるか、も大事です。長野県の先生は腰据えています。

## 定野教育長

県内で動ければ良いのですが、足立の場合、区外に出て行く先生が多いです。新しい先生の辞令は約150人に渡していますので、1校当たり1人か2人は最低いると思います。多い時は

200人以上いました。15人程度の学校に2人の新人は大変です。そういう状況を変えるため、都の教育庁にお願いして大分減ってきました。

一方で、全体数として退職者が出れば補充する。また、7年でローテーションしますので足立区に長く配置できません。すると、足立区内での年数が短くて、出てしまう傾向と思います。

### 村上青少年担当係長

7年の決まりがあるので、一人前になった頃に出てしまう。基本的に都内の3地域を経験してその後は選べるしくみですが、足立から出たら戻らない傾向です。

### 定野教育長

足立にいた校長先生は、幾つか経験して戻ってくる先生が多いです。一般の先生で戻ってくるケースはあまり聞かないです。戻って来る校長先生は、地域での実績もあり評価が高いです。また、こうした校長先生からは、青少年団体の連合会や地区対にしても、学校を支えてくれる意識は、他区よりも優れていると言っていると思います。

### 明石議長

そうしたデータが欲しいです。それがあれば非常に助かります。

### 伊藤子ども家庭部長

まとまった統計データがございます。また、人口動態、転入転出の地域別など、後ほど資料をお送りさせていただきます。

なお、資料は多種にわたります。不足などございましたらご連絡ください。

### 松田委員

データというと、23年度に足立区青少年課とご一緒させていただいて、小学生と中学生の生活行動の時間調査をやらせていただきました。その中で気になったのは、スクリーンタイムの多さというのが、テレビ、ネット、携帯電話など、他地区と比べてもかなり多かった記憶があります。

それと、行動範囲の狭さ。子どもたちの行動範囲が非常に狭く、中学生になっても二駅向こうにまではあまり遊びに行きません。

### 明石議長

おもしろいデータです。

### 松田委員

地理的な調査なので、そういうところの子どもの生活実態がフォローされているような数字があれば確認したいと思いました。



## 明石議長

東京都が体力テストで全国平均を下回って、都の教育委員会が15,000歩、歩きましょうというガイドラインを設けています。5,6年生の平均が1万歩。去年はある学校で休み時間を60分設けて12,000歩。そこで足立区はどうでしょう。

東京都平均と足立区が、松田先生おっしゃるように行動半径が狭ければ、歩数は動いていません。文科省の体力テストのボール投げも大事ですが、東京都がやっている歩数の問題、動かないと人間関係は広まっていけない。動かないから体力がつかない、おなかがすかない。そして、メディアから離れない悪循環が起きる。色々な場面で、行動半径を広げるチャンスがあります。

## 定野教育長

スポーツ奨励校で頑張っている学校もあります。この間、2つの表彰状を渡しました。スポーツを盛んにやっている学校とやってない学校では、大きな差があります。

## 村上青少年担当係長

先ほどの委員のお話でよく言われているのが、足立の子どもは、区内の小中学校、区内の高校、そのまま区内の企業に勤めてなかなか外に出ない。

## 定野教育長

区内の都立学校の7、8割は区内の子どもです。

## 明石議長

すばらしい。逆にいえば、行動半径は狭いけども足立が好きなのです。愛着心があると考えられる。

## 村上青少年担当係長

外に出るのが怖い子も。また、自分に自信が持てないなど、そこが大きな課題として言われ続けていますので、出ない良さもありデメリットもある。

## 伊藤ども家庭部長

子どもの頃、親が外へ連れ出さなないことも考えられます。就労支援をする際、最初に切符の買い方から教えるという話もあるくらいです。

## 明石議長

大事な意見です。

## 村上青少年担当係長

次世代支援の行動計画の調査でも、外に連れて行っていません。例えば、子どもを上野の博物館、そこに連れて行くのは本当に限られています。そういう区外の文化施設に連れて行くことが大変低いことが調査で分かりました。

## 明石議長

それも連鎖していくようです。

## 定野教育長

ですから糖尿病の率も高くなります。

## 松田委員

学校から家に帰さないで、活動させていたほうがいいと、先ほど部長が言ったわけですね。学校はできるだけいろいろな体験をさせたほうがいいと、遊びも運動も勉強も。

## 明石議長

このような発想は、ドイツでは違いアメリカは同じです。アメリカは家庭へ帰すとダメなので、放課後の延長でまさに同じことをやっている。それからイギリスもイクステンド、ドイツも半日から全日学校になりました。先進国はみんなそういう形です。お願いしたいのは、基礎データを踏まえ、6つの視点でどうするかを検討していくことです。

足立区の青少年教育、社会教育のミッションとビジョン、パッションをつくっていかないと。文言を良くしても、そのとおりにいきません。14期のテーマは、前回まで地域の教育を高め体験活動を通して青少年を育むとか、このミッションは長過ぎると思いました。どういう使命を持って、次のビジョンは具体的にしていく。お母さん、お父さん、地域の方がもっと元気が出るような、教師たちがパッションを持つ施策を出していくべきと思っています。

あとは、村上係長の説明で検討項目と表の課題、私は時間的に、3番の検討に当たっての課題設定をやる場合、データがないと見えてこない。行政はデータを持っていますが、委員は基礎データが分からないので、課題設定を考える場合、もう少し足立らしさにこだわっていきたいと思いました。

青少年、中高校生、それ以降の方が内向きならば、内向きの良さを少し逆手にとっていく。だめではなく、内向きなら内向きらしくいこうとか、彼らに足立の文化、足立固有の青少年文化は何ぞや、を言って、そろばんがうまければトニー谷のそろばん、そのぐらいの発想でやらないと。足立の子どもたちの自己紹介は、そろばんでやるとか。

伊藤部長、よく申し上げておりますが、成田先生の出身は信州です。信州の方はみんなが信濃の国、県の歌を歌えます。果たして足立の方は区の歌をどのぐらい歌えるか。

## 定野教育長

多分、青少年は歌えると思います。57年につくりましたから、かれこれ30年です。学校行事ごとに歌っていますから。

## 寺島青少年課長

成人式でも流しますが、新成人は皆歌っています。

### 明石議長

それはぜひ自慢しましょう。

### 定野教育長

それはいいと思います。自慢できます。

### 明石議長

窃盗とか、自転車泥棒じゃなくて、足立の青少年は区の歌が歌える自慢をしたい。いいところはもっとキャッチアップしましょう。

若い職員に質問します。区外にお住まいであれば、足立区の良いところは。

### 渡辺管理調整係主事

食育に対しての力があるところです。

### 明石議長

足立の給食が一番おいしい。食べてみましたか。どうしておいしいのでしょうか。

### 渡辺管理調整係主事

はい、食べました。おいしい理由は、子どもたちが大きく成長してほしいという考え方が給食にあらわれていると考えています。

### 明石議長

そのとおり。栄養士の先生がいいからです。

### 寺島青少年課長

学校によって栄養士が違うから、残菜率も違ってきます。

### 明石議長

ぜひ若い人でもディスカッションして、足立のネガティブなことは言いやすいけど、プラスを引き出していける政策に反映してもらいたい。

### 定野教育長

区の歌にもありますが、桜の植樹率は高いです。足立区の公園は、どこでも桜があります。ぱっと咲いて散ってしまいがちですが、桜が多いのも足立区の特徴で区民に愛されています。

### 明石議長

スカイツリーが見やすいのは、荒川区と足立区です。そこにも桜があり、ベンチをたくさん置き、桜を見てスカイツリーを見て愛を語る。また、結婚して金婚式を迎えた夫婦がベンチを寄贈する、というのはどうでしょう。

## 定野教育長

今、荒川千本桜構想とあって、苗木を植え始めています。昔は、桜並木でしたが、戦争のときに燃料として活用されたそうです。婚活で思い出しましたが、ベンチは確かに設置されていません。婚活も大事ですが、国交省は、ベンチまでは許可できなかったのでしょうか。

今植えている桜は、区民の寄附です。区民のお名前を入れて1本3万円、あっという間に売り切れました。これも区民性です。

## 明石議長

千本桜構想、いいですね。ぜひキャッチコピーをつくりましょう。いいですね、千本桜。足立青少年などを絡めて。本日は、色々とデータを紹介いただき、次回はデータの提供に基づいて、9月の総合教育会議のヒアリングを受けて議論ができればと思います。

以上、きょうは用意した議事はこれで終わりたいと思います。

では、スケジュールの説明をお願いします。

## 寺島青少年課長

本日は検討課題の確認をいただきました。只今、明石議長からもお話がありましたとおり、9月にヒアリングが予定されています。それまでに、教育委員会としての考え方と先生方のご意見のすり合わせをしていきたいと考えております。多少、タイトなスケジュールですが、6、7、8月で検討を進めていただければと思います。

## 明石議長

あと3回で大体の中身をまとめていくことですか。

## 寺島青少年課長

そうです。今回挙げさせていただいた検討課題、検討項目についてどこまでできるか、ということはあるんですが、大きな項目に対しては、何とか形にしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

## 明石議長

ありがとうございました。

きょうお願いした資料を踏まえて、青少年組織の育成や詳細な検討を絡めていきましょう。本日はテーマも出してもらいました。検討項目1から6は、何回も議論したほうがいいです。どうもありがとうございました。

**午後3時21分・会議閉会**